

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」 期末テスト対策ポイント

(コウ) 黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る
 (コウリョウ) 李白

故人西辞ニ黄鶴楼ヲ
 煙花三月下揚州ニ
 孤帆ノ遠影碧空ニ尽キ
 唯見長江ノ天際ニ流ルヲ

(こじん) 故人西のかた黄鶴楼を辞し
 えんか 煙花三月揚州に下る
 (こはん) 孤帆の遠影碧空に尽き
 たみ 唯だ見る長江の天際に流るるを

| | |
|-------|---|
| 作品名 | こうかくろう もうこうねん こうりょう ゆ 黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る |
| 作者 | りはく 李白 |
| 詩の形式 | しちごんぜっく 七言絶句 |
| 表現技法 | 押韻(第一句・第二句・第四句) 倒置法(第四句) |
| 作品の主題 | 友人と別れることの悲しみ |

※李白は、杜甫と並ぶ唐代(中国の王朝の名前)に活躍した詩人



りはく
李白



中国の唐の時代に活躍した詩人。
とくに七言絶句が得意。
杜甫（とほ）とともに、中国詩歌史上において最高の
存在とされている。
「詩仙」と称されているよ。

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」書き下し文

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る 書き下し文

故人西のかた黄鶴楼を辞し
煙花三月陽州に下る
孤帆の遠影碧空に尽き
唯だ見る長江の天際に流るるを

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」現代語訳

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」現代語訳

私の古い友人は、（目的地の広陵から）西にあるこの黄鶴楼に別れを告げて、
春がすみの三月に、揚州へと（長江を船で）くだっていく
たった一つの帆かけ船がどんと遠ざかって、青空の中へ消えてしまう
（私は）長江が空の果てまでつづいて流れていくのを見るだけ



「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」詩の形式

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」は、全部で4つの句からできている漢詩なので、詩の形式は「絶句」になるよ。

春暁や杜甫の作品は、ひとつの句が5文字で作られていたから、「五言絶句（ごごんぜっく）」という形式だったけれど、「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」は、ひとつの句が7文字で作られているので、「七言絶句（しちごんぜっく）」という形式なんだ。

| | | | |
|--|---------------|---|---|
| | | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ぜっく 絶句</div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">りっし 律詩</div> |
| | | 4つの句で できている漢詩 | 8つの句で できている漢詩 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ごごん 五言</div> | ひとつの句が 5文字 | 五言絶句 (五言 + 絶句) | 五言律詩 (五言 + 律詩) |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">しちごん 七言</div> | ひとつの句が 7文字 | 七言絶句 (七言 + 絶句) | 七言律詩 (七言 + 律詩) |

漢詩の形式の見分け表



4つの句できている
→「絶句」

第 第 第 第
四 三 二 一
句 句 句 句

唯 孤 煙 故 1

見 帆 花 人 2

長 遠 三 西 3

江 影 月 辞 4

天 碧 下 黄 5

際 空 揚 鶴 6

流 尽 州 楼 7

ひとつの句が7文字で、
4つの句できているから
「七言絶句」だよ。

ひとつの句が7文字で
作られている
→「七言」



「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」表現技法

倒置法

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の第四句には、倒置法が使われているよ。

倒置法とは

文章の語順をあえて通常とは逆にすることで、印象を強める効果がある表現技法のこと。

第四句の「唯だ見る長江の天際に流るるを」は、通常なら

「長江の天際に流るるを唯だ見る」

というふうになるよね。

それをあえて逆にして、印象を強めているんだね。

第四句では**倒置法**が使われているよ。

長江の天際に流るるを唯だ見る

唯だ見る長江の天際に流るるを

本来ならば、「長江の天際に流るるを唯だ見る」という語順になるところを、倒置して「唯だ見る長江の天際に流るるを」となっているよ。

テストでは、「どんな表現技法が使われているか?」とか、「第四句にはどんな表現技法が使われているか?」とか、「倒置法が使われているのはどこか? (答えは第四句)」とかいうように問題が出るよ。



押韻について

押韻というのは、「韻を踏む」こと。

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」では、第一句、第二句、第四句で韻が踏まれているよ。

第一句 故 人 西 辞 黄 鶴 楼 (ロオウ)
 第二句 煙 花 三 月 下 揚 州 (チオウ)
 第四句 唯 見 長 江 天 際 流 (リオウ)

第一句・第二句・第四句で押韻が使われているよ。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 唯 | 孤 | 煙 | 故 |
| 見 | 帆 | 花 | 人 |
| 長 | 遠 | 三 | 西 |
| 江 | 影 | 月 | 辞 |
| 天 | 碧 | 下 | 黄 |
| 際 | 空 | 揚 | 鶴 |
| 流 | 尽 | 州 | 楼 |

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る

「押韻」とは、似たような音の文字で韻を踏んで、リズムを作ったり、印象を強くする表現技法。

テストでは、「第何句に押韻が使われているか?」とか、「韻を踏んでいる漢字を3つ書きなさい」というような問題が出ることもあるよ。

色の対比について

第三句では、舟の帆の「白」と、空の「碧（青）」の色の対比がされているよ。

はっきりと「白」という言葉は出てこないけれど、舟の帆＝白を連想させているんだね。青い空と舟の帆の白さを対比させることで、より情景がはっきりとして、読み手の印象にも強く残るよね。

広く青い空に対して、小さな白い舟の帆であることも、なんだか寂しいような、物悲しいようなイメージが伝わるよね。



漢字の読み方・語句の意味

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」は漢詩なので、普段あまり使わない言葉や、漢字の読みが難しい語句があるね。
 テストでは、語句の意味や漢字の読み方が問題に出されたりもするので、しっかりおさえておこう。

| 語句 | 読み方 | 意味 |
|-----|--------|--|
| 黄鶴楼 | こうかくろう | 中国の武昌という町にある建物の名前。 |
| 孟浩然 | もうこうねん | 唐代の詩人の名前。「春 暁」の作者だったね。作者の李白とは古くからの親友。 |
| 広陵 | こうりょう | 中国に昔あった郡の名前。揚 州 = 広陵。 |
| 煙花 | えんか | 春の「かすみ」のこと。「煙」は春がすみのことで、「花」は春に花が美しく咲き乱れているようすを表している。 |
| 孤帆 | こはん | たったひとつだけ見える「ほかけ船（帆があるシンプルな船のこと）」。 |
| 碧空 | へきくう | 青空のこと。 |
| 天際 | てんさい | 空のはてのこと。 |

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」それぞれの句の情景

まず情景を理解するために、「黄鶴楼」と「揚州」、「長江」の位置関係を確認しよう。



黄鶴楼

現在の中華人民共和国武漢市武昌区にあった楼閣。三国時代に長江から侵入する敵を監視するために呉の孫権によって建築された。

揚州

漢の時代に置かれた13州のひとつ。海上交通の拠点とされて、大都会として栄えた。



長江

チベット高原を水源とする、中国最長の川。世界的にも、ナイル川・アマゾン川につぐ第3位の大河。





この詩を詠んだ李白がいるのは「黄鶴楼」。

李白の「故人（古くからの友人）」である孟浩然是、黄鶴楼を去って揚州へ向かうために、長江を船で下るんだ。

第一句の情景

「故人西のかた黄鶴楼を辞し」というのは、

「私の古い友人は、西にあるこの黄鶴楼に別れを告げて」という意味。

「故人」というのは、日本語だと「亡くなってしまった人」という意味だけれど、中国では「古い友人」とか、「古い親友」という意味なので注意しよう。

この「古い友人」というのが、孟浩然のことなんだね。

孟浩然是、李白よりも10歳年上で、「春暁」の作者でもあるように、漢詩の名手として李白は孟浩然のことを尊敬していたよ。

だから、李白は孟浩然と別れることをとても残念に思っているんだね。

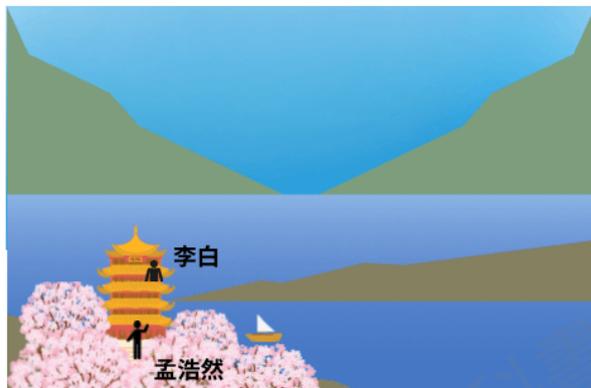
「辞し」というのは、あいさつをして引き下がること。つまり、別れを告げて黄鶴楼から去ってしまうという意味なんだ。

「西にある」というのは、目的地の揚州（広陵）に対して、黄鶴楼がある場所が西にあるからだよ。



第一句の情景

故人西のかた黄鶴楼を辞し



(李白の) 古くからの友人である孟浩然が
(目的地の揚州に対して) 西にある、この黄鶴楼から
去って

第二句の情景

「煙花三月揚州に下る」というのは、
「春がすみの三月に、揚州へと（船で）くだっていく」という意味。

「煙花」は、春のかすみのことだったね。
この漢詩の中での季節は三月で、春かすみが立つようなころということが分かるね。
この三月は旧暦なので、現代（新暦）だと四月から五月くらいのことになるよ。

「揚州に下る」というのは、「揚州へ」「船で下る」ということだね。なぜ「下る」かという、孟浩然是長江（中国を流れる川の名前）を使って揚州へ行くのだけれど、黄鶴楼があるところに比べて、目的地の揚州は下流にあるからだよ。

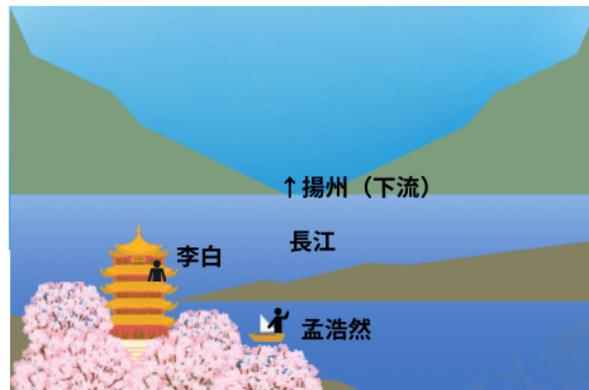
揚州は、栄えて華やかな港町。「春かすみ」ということばが使われているところからも、孟浩然が春の美しい季節に、華やかな揚州へ行くことを華々しく詠んでいるね。

そもそも孟浩然是なぜ揚州へ行くのかというと、当時の孟浩然是浪人で、官職についていなかったんだ。
なので、揚州へ行って職を探そうとしていたのではないかと考えられているよ。

だから、孟浩然のこの先の職探しがうまくいくように、という願いも込めて、李白は華々しく送ろうとしたのかもしれないね。



第二句の情景 煙花三月揚州に下る



春がすみの三月（現在の五月ごろ）に、揚州へと向かうために（長江を）下っていく

第三句の情景

「孤帆の遠影碧空に尽き」とは、
「たったひとつの帆かけ船がどんどんと遠ざかって、青空の中へ消えてしまう」という意味。

遠影は「どんどんと遠ざかって、遠くにシルエットが見える」状態だね。

孟浩然が揚州へ行くことを第二句では華々しく詠んでいたのだけれど、この第三句では、「孤帆」や「遠影」「尽き」と、とつぜん寂しい雰囲気の語句が使われているね。

孟浩然の乗った船がどんどん遠ざかっていくにつれて、「ああ、本当に行ってしまうのだな・・・」と李白の心に寂しさが押し寄せてきたのかもしれないね。



第三句の情景 孤帆の遠影碧空に尽き



(孟浩然を乗せた) たったひとつの帆かけ船がどんどんと遠ざかって、青空の中へ消えてしまう

第四句の情景

「唯だ見る長江の天際に流るるを」とは、
「（私は）長江が空のはてまでつづいて流れていくのを見るだけ」ということ。

もう孟浩然が乗った船は見えなくなってしまっていて、ただ長江と空だけが映る景色を、李白はそのままずっと見ている様子が伝わるね。

孟浩然との別れが寂しくて、見えなくなったあともずっとそのまま見続けてしまっているのかもしれないね。

第四句の情景 唯だ見る長江の天際に流るるを



(李白は) (孟浩然を乗せた船が見えなくなったあとも、) 長江が空のはてまでつづいて流れていくのを見るだけ



「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」作者の心情と詩の主題

第一句から第四句までの内容をまとめると、

春がすみの三月、作者の李白は、古くからの親友である孟浩然が、黄鶴楼に別れをつけて揚州へと旅立ってしまうのを見送っている。

孟浩然は、帆かけ船にのって、長江を下って揚州へ向かう。

孟浩然の乗っている船は、どんどん遠ざかって小さなシルエットになり、とうとう青空の中へ消えてしまう。

孟浩然の船が見えなくなってしまったそのあとは、李白はただ長江が空のはてまでつづくように流れているのをずっと見るばかりだった……

ということ。

李白は、孟浩然が去ってしまうのが寂しくて、ずっとその姿を見送り続けていたんだよね。

ズバリ、この漢詩のテーマは「友人と別れることの悲しみ」だよ。

古くからの親友であり、十歳歳上の孟浩然を尊敬していた李白は、孟浩然との別れを悲しんでいるよ。



「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」
のテーマは「友人と別れることの悲しみ」



「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」まとめ

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」まとめ

- ・詩の形式は「七言絶句」。
- ・作者は唐代の詩人「李白」。
- ・第四句では「倒置法」が使われている。
- ・第一句と第二句、第四句の「楼」「州」「流」で押韻が使われている。
- ・難しい漢字の読みを確認しよう!
- ・それぞれの句の意味と情景を理解しよう!
- ・詩のテーマは「友人と別れることの悲しみ」。

